

学校だより



市川市立平田小学校

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～

いなほ
稲穂

学校教育目標

夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

No.3

令和5年4月19日

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho>

もっといい学校をつくろうよ

トヨタ自動車では、4月1日に豊田章男社長が退任して佐藤恒治氏が社長としてそのあとを受け継ぎます。「もっといいクルマを作ろうよ」という言葉は、豊田社長の名フレーズの一つとして有名です。「もっといいクルマとは何か」を考えることを促し、ボトムアップでいいクルマを作る集団を育ててきて現在があるわけです。後任の佐藤氏はエンジニア出身。自分自身がドライビング大好き人間の豊田社長とは違って、運転する人を笑顔にするクルマを作るのが好きだと言っています。自動車業界を牽引する存在として、どんな手法をみせてくれるのか楽しみです。

さて、豊田氏の名フレーズを借りて言うなら、「もっといい学校をつくろうよ」と声を大にして言いたいと思います。これは校長なら誰もが常に考えていること。学校それぞれの実態が違いますので、教職員・保護者・児童・地域の方みんなが「もっといい学校って何か」を各人の立場で考える必要があります。「いい学校」とは、決して「自分に都合のいい学校」であってはいけません。だから、それらを持ち寄って協議する場も必要です。そして、平田小にかかわるみんなを笑顔にすることができたなら素敵だと思いませんか？

昨年度からの課題はたくさんあります。その中で今年度は、清掃活動に全校が一斉に取り組める時程としましたので、意識とともに取り組み方が大きく変わるのではないかと期待しています。以前、市内外の学校を訪問した際に必ずトイレを見て回りました。トイレの状況によって、学校の児童生徒の様子を少なからず窺い知ることができるからです。「自分たちで生活する場所は自分できれいにする」という考え方からすれば、最もきれいであるべき場所とも言え、「挨拶」とともに学校を知るものさしとなるのです。そうした目で校内のトイレを見て回ると、決してきれいとは言えない状態が垣間見られたのは事実です。

植村花菜さんの『トイレの神様』という歌がありました。「トイレにはキレイな神様がいる。だから毎日キレイにしたら女神様みたいにべっぴんさんになれる」といった歌詞がありました。この「べっぴんさん」は容姿端麗の意味もあるでしょうが、「心の美人」を指しているように思えます。そんな「心美人」の子供たちを育むために、丁寧に清掃指導を続けるとともに、「いい学校」づくりのために教職員や保護者、地域が協力をしていけたらうれしいです。



トイレ掃除を通して、①気づく人になる、②心も磨いて謙虚になる、③感謝の心を芽生えさせる、そんな子供たちを目指していきたいです。家庭でも玄関やトイレ、キッチン、風呂などに目を向ける視点と行動力になったらいいなあ。

外国語教育に関する児童アンケート結果

左の表を見ると、本校児童の外国語教育に関する意識、特に必要性について「はい」と答えた割合が低いことがわかります。こうした意識は授業への取り組み方にも影響します。抽出調査（昨年度三学期実施）ではありませんが、今年度の課題として外国語の授業のみならず、キャリア教育や国際理解教育等の充実を目指してまいります。

※回答は4段階 調査は学年1学級抽出		本校肯定回答	市川市
英語は好きですか	3年生	82.6%	83.8%
	4年生	84.0%	79.9%
	5年生	66.0%	71.1%
	6年生	60.6%	68.6%
英語の授業は楽しいですか	3年生	100%	92.7%
	4年生	90.0%	89.8%
	5年生	76.0%	82.5%
	6年生	▲36.4%	75.5%
※回答は「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3段階		本校「はい」	市川市
英語が話せるようになりたいですか	3年生	82.6%	97.6%
	4年生	80.0%	98.1%
	5年生	68.0%	97.2%
	6年生	57.6%	97.8%
英語の勉強は大切だと思いますか	3年生	87.0%	97.2%
	4年生	88.0%	97.3%
	5年生	▲74.0%	96.0%
	6年生	▲69.7%	96.1%

『がまんだ がまんだ うんちっち』を読んで

はちすか ひさゆき

ぼくは、この本の作者である梅田俊作さんと佳子さんの作品が大好きです。背表紙が色あせていましたが、『おとこどうしのおるすばん』や『こんにゃろ！とうちゃん』、『わたしがこぶただったころ』という絵本が、『ダレンシャン』シリーズなどといっしょに校長室にもならべて置いてあります。

ほかにも『よーい どんけつ いっとうしょう』や『ばあちゃんのなつやすみ』などおもしろい作品はありますが、ぼくが一番のおすすめは『がまんだ がまんだ うんちっち』です。表紙には、「梅田俊作／佳子／海緒 作・絵」とあります。主人公の名前が「みおくん」なので、もしかするとここに登場するお母さんは「佳子さん」なのかもしれません。入学式で校長先生が読み聞かせをしてくれて、一気にお気に入りの本になったのです。

ぼくは、この「みおくん」と「お母さん」をすごいなあと思います。小学校1年生のみおくんは、学校を出るときウンチをしたかったけれど、上級生がトイレそうじをしていたので入れませんでした。家までの帰り道、トイレを借りられそうな場所をいろいろと考えます。友だちの家は留守でした。以前トイレを借りたことのあるケーキ屋さんや寿司屋のおじさんのところ、駅うらの公衆便所、スーパーマーケットと、考えられることを順番に全部試してみる行動力や勇気に感心しました。

でも、おしりのムズムズにも限界はあります。駐車場そばの草むらで用を足してしまったのです。こんなみおくんもすごいけれど、お母さんもやさしい人でした。だって、パンツまで汚してしまったのに、あわてないで考えられることを全部やったみおくんを褒めてくれたからです。そしてこう言ったのです。「駐車違反のみおくんのウンチを取りに出發！」と。こんなすてきなお母さんといっしょに暮らすみおくんがうらやましくなりました。ただ、ぼくのお母さんだって負けていません！